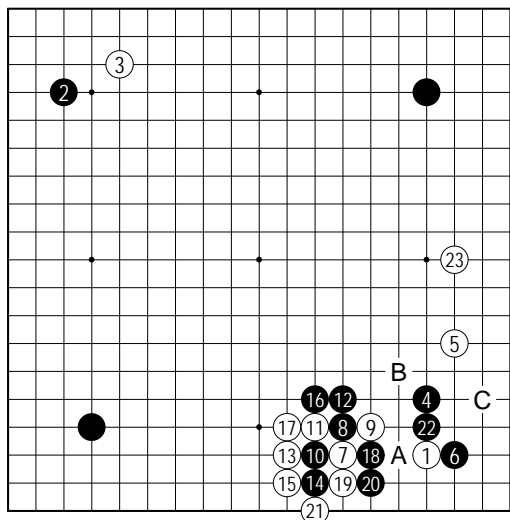
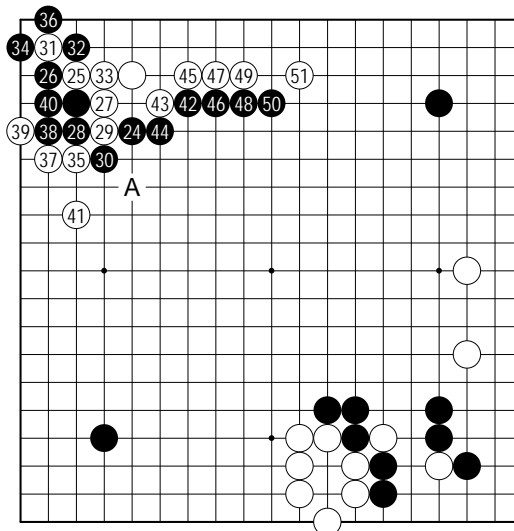


第一譜 1-23



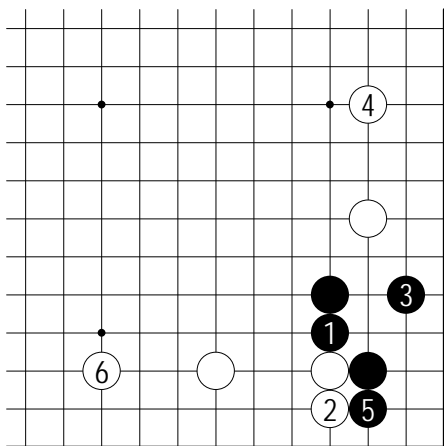
右下隅では近年流行の形になりました。黒8、白9のところで多数の変化がありプロの研究でも次々と変化が現れています。黒は10、14の二子を犠牲にして白の隅を破ったが、白としても両側の辺に構えて、後にA、B、C、などの味があり、白も打てるだろうと思いました。

第2譜 24-51



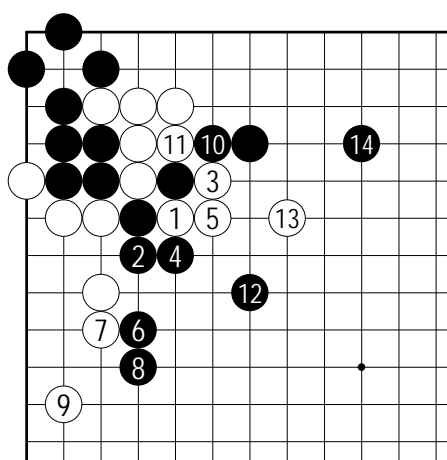
黒24は珍しい手ですが工夫が感じられます。白25は黒の形の弱点を衝いた手で、こうやって行きたくなります。白31は35のキリを可能にする犠牲打でした。黒42は鋭い一手でした。白51まで、互角のワカレです。次に黒Aが大きな一手です。

基本定石



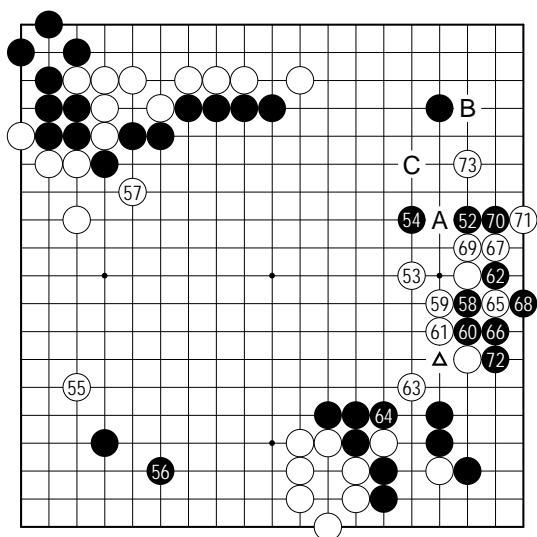
簡明に打つなら、実戦の黒8で図の1とブツカリ、白6までが基本定石です。

白ハマリ



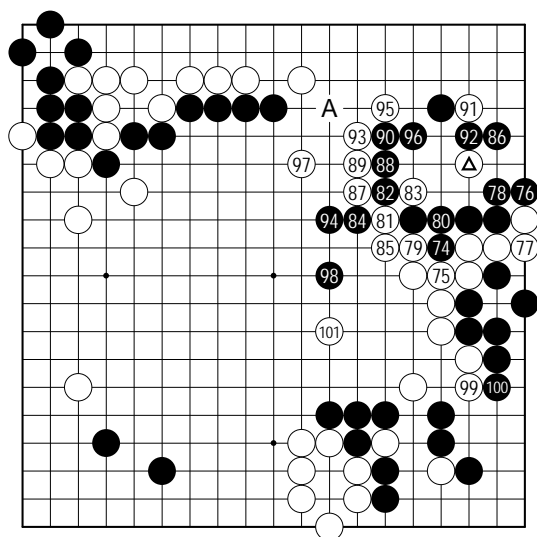
実戦の43で1以下は筋悪です。14まで黒成功です。

第3譜 52-73



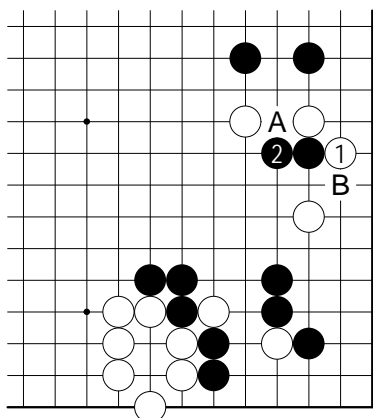
黒54で私なら57と手厚く打ちたい。白57は左辺を拡大しながら黒壁への攻めを狙いました。黒58は鋭い手筋です。白59はこの一手。白63は△の断点を補った。65以下は勢いですが、黒は白の眼形を奪ってうまく攻めている。白73はA、B、Cなどの狙いを含みに右辺の白のサバキを見た手。

第4譜 74-101



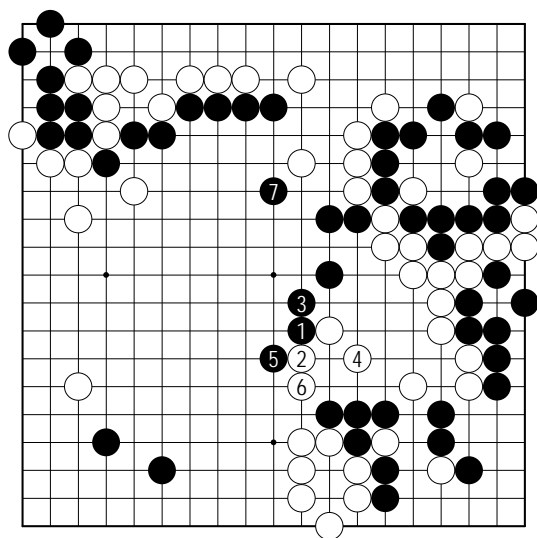
白79、81と打って△の一子を捨石にして、中央のラインを止めに行きました。黒94は強い態度ですが、この手で93の頭にハネて地のリードを拡大するのも有力でした。白97は黒Aの防ぎと、上辺の黒への攻めを狙っています。

白失敗



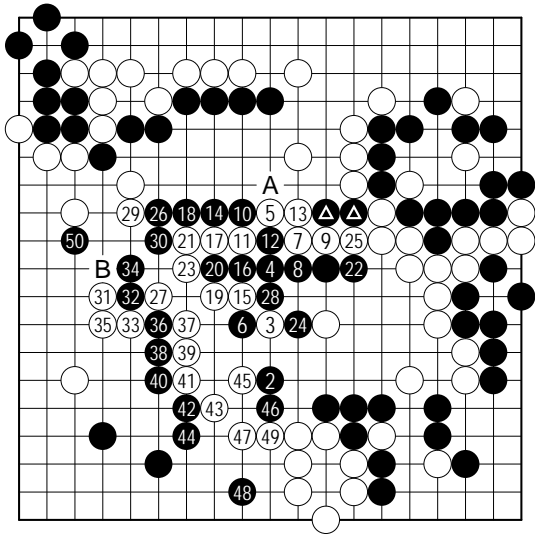
実戦の59で、白1の下ハネは黒2と打たれて、AとBが見合いとなって白不満です。

簡明



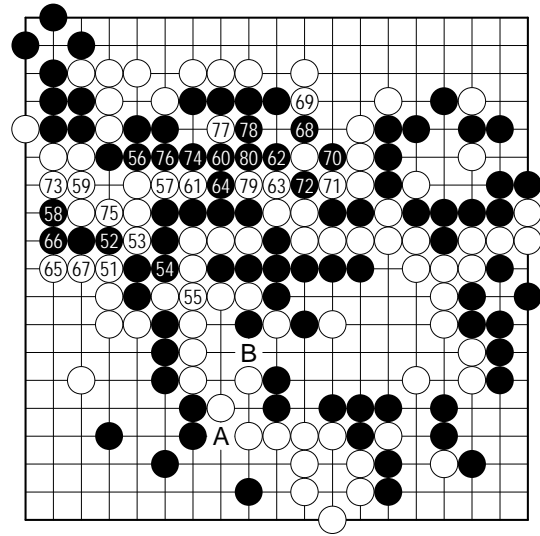
白101の後、図の1~7と打てば簡明でした。黒優勢です。

第5譜 101-150



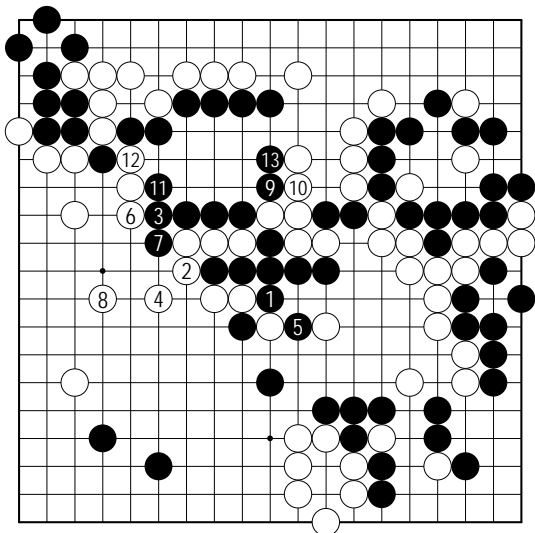
白 109 まで黒二子を取っては形勢が接近しました。115、119 は手順。黒 122 はAの利きを失って疑問でした。131 までとなつて、単純に生きる手段はありません。黒 132 は手筋。黒 150 も手筋だったが、140 の手で先に 150、または黒Bと打つ方が効果的な意味がありました。

第6譜 151-180



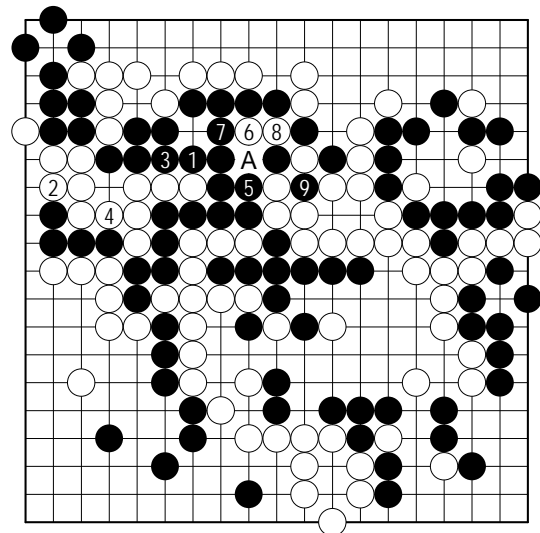
黒 152 以下、捨石を使いながら巧妙に中央をコウにしました。因みに下辺の白はAとBの利きがあつて、このままでほぼ生きています。黒 72 では先に 78 と打てば地が得で、コウダテも有利な意味がありました。80 までとなつて、黒の死活を争うコウになりました。

生き



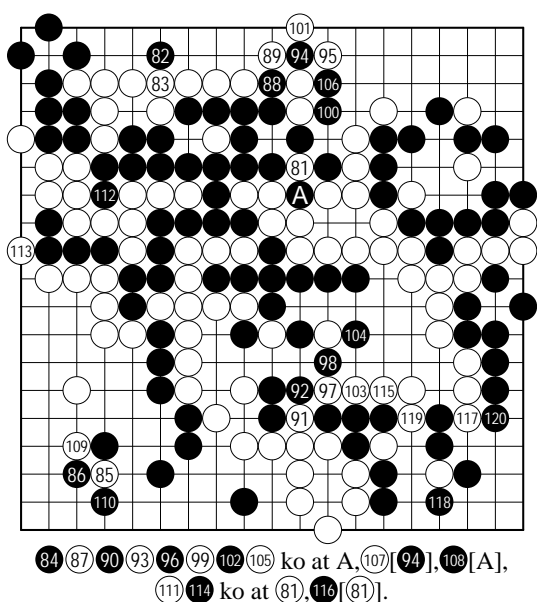
黒 122 で単に図の 1 が良く、9 が利く関係で、13 まで中央の黒生きです。

黒取り番



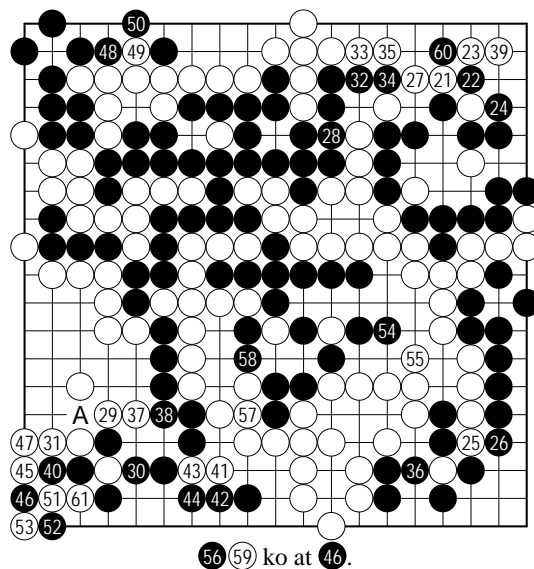
黒 172 の変化。本図は黒取り番、Aも黒のコウダテとして使えます。

第7譜 181-220



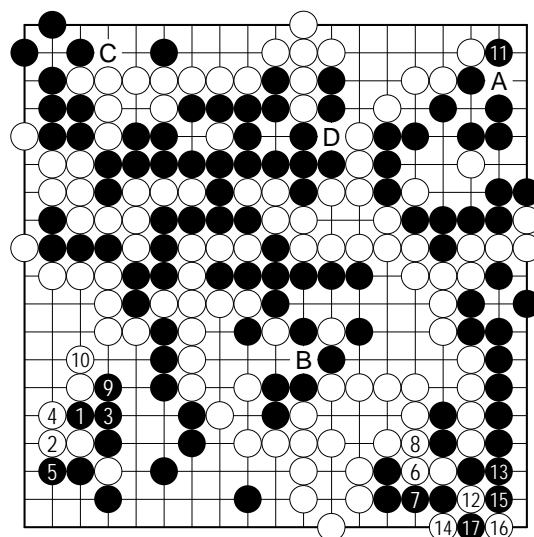
本譜はコウ争いに終始しました。85、91 など、コウダテの手順に苦心したところ。黒 100 は地を得しながらのコウダテです。黒 104 で 115 からどんどん出れば白二子を取れますが、それでは白のコウダテが増えすぎて黒失敗です。順当な振り替わりとなって、黒 120 の時点では細かいながら黒優勢です。

第8譜 221-261



黒 28 が敗着になりました。この手は 36 のところとほぼ同じ大きさで、黒 A のワリコミが最大でした。黒 50 で 51 のツギならまだ微差でした。黒 52 以下は投げ場を作ったようです。

黒 28 の正解



本図は黒地で優勢、白 14 以下のコウ仕掛けは絶対です。白 A、B の損コウを打つ展開になれば、コウ替わりは黒 C、D とヨセの連打でも黒勝てます。